

研究主題

「みんなで創る児童会活動

～自分達できめたキャラクターを活用して～

大田区立入新井第五小学校 アップルタートル会

1 研究主題の設定の理由

児童会は、全児童によって組織される。児童会活動の目標は、「児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくり参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる」である。

本校は、昨年度創立80周年であった。代表委員会では、感動的な周年行事になるために23年度に児童会で決めたキャラクター「アップルタートル」を活用して、「みんなで、80周年にむけて自分たちが出来ることを話し合おう」と呼びかけた。その結果、代表委員会では、「アップルタートルの仲間をふやそう」という議題が決まり、全校児童にオリジナルなアップルタートルの絵を応募して80周年記念式典時に掲示した。自分たちで話し合っただけで決めたことが、生かされ、児童にとって満足感・達成感の味わうことが出来た。このことがきっかけその後各委員会においても、アップルタートルを活用しての取り組みが見られた。例えばアート委員会では、アップルタートルの写真を撮って、掲示したり、アップルタートルを立体で作って展示したりした。

今年度は、昨年度と同じように、児童が自分たちで決めたキャラクター「アップルタートル」を生かしながら、自分たちの生活をより豊かに、楽しいものにしてほしいと願っている。そこで「みんなで創る児童会活動～アップルタートルを活用して～」を主題として、児童会を中心に自分たちの学校生活をより豊かに、楽しく出来るか実践を通して研究を進める。そのためには教師は、児童の創意工夫や発想をどのように引き出し、また話し合い・実践においては、適切な助言や指導を行っていく。

2 児童の様子

本校は、児童数347名の学校である。素直で素朴な印象の児童が多く、外遊びをよくしている。縦割り班活動をはじめとして、異学年の交流は活発で、授業や集会等、多くの場が設定されている。その結果、休み時間も異学年で遊んでいる姿も多く見られる。特に最高学年の6年生は、リーダーシップを発揮し、低学年の児童にやさしく接している様子が多くの場面で見られる。しかしながら、話し合い活動になると「友だちや先生に自分の気持ちを言えましたか」の問いには、25%の児童が、「あまりよく言えない」「言えない」と答え、自分の思いや願いが十分に伝えられない様子が伺える。他者を思うばかりに自分の考え、思いを言えない児童や、意見を強く主張する児童に流されてしまう傾向がある児童も見られる。学級活動(1)の各話し合いの時間を各学級で積み重ねていく事はもちろん、児童会活動を通して、自分たちで話し合った事が実践されたという満足感、達成感を味わわせたい。

3 実践事例

「みんなが気持ちのよいあいさつが出来る学校にしよう」

議題集め

本校は、学級が輪番になって、2週間後と校門2カ所にたってあいさつ運動を行っている。しかしながら、当番になった児童が張り切ってあいさつするものの、あいさつを返さない、元気のないあいさつをするという児童が見られた。5月初旬、次のようなカードが議題箱に入っていた。

議題カード

議題 みんなが気持ちよく朝のあいさつをするためにはどうしたらよいか

理由 あいさつ当番であいさつするけれど、あいさつを返してくれない人がいるから

議題の決定

「気持ちのよいあいさつができる学校にするための工夫をしよう」

代表委員会で話し合う事になった。各学級にどうしたら気持ちのよいあいさつが出来るようになるためには、どんな工夫をよいか話し合い、意見を次の代表委員会までにもって来ることとした。

※教師の助言 昨年周年で活躍したアップルタートルをいかしてほしい

話し合い 代表委員会

議題	「気持ちのよいあいさつができる学校にするための工夫をしよう」	
提案理由	あいさつは、お互いが気持ちよく生活するためには大切なものです。しかし今、朝、当番の人があいさつをしても元気にあいさつを返してくれない人を見られます。みんなが気持ちよいあいさつが出来れば、今よりもっとよい学校になると思って提案しました。	
話し合う事	① アップルタートルを生かして学校全体で取り組む事を考えよう ② 分担	
決まった事	内容	分担
	・ポスターで呼びかける。 ・アップルタートルの入った旗を作る ・アップルタートルの入ったはちまきを作る。 ・アップルタートルの入ったたすきを作る。 ・スローガンを決める。 ・呼びかける集会をする。	6年 6年 6年 6年 5. 6年代表委員 5. 6代表委員会

実践

○5. 6年代表委員からのスローガンの発表（お昼の放送、ハロー集会）

自分から
笑顔で
相手に伝わる声で

○朝のあいさつ運動

各学年が6年生の作った旗、はちまき、たすきを持ったり、身につけたりしてあいさつ運動を各学級が輪番で行った。

アップルタートルを活用したグッズ



○集会

代表委員会があいさつを呼びかける集会を行った

ハロー集会プログラム

- 1、はじめのことば
- 2、スローガンの発表
- 3、寸劇
- 4、5年ハロースターズのダンス
- 5、おわりのことば

振り返り

- ① 旗やたすき、はちまき、ポスターのグッズを使うことによって、あいさつ当番をしっかりと行うおうとする気持ちが高まった。
- ② 気持ちよくあいさつする事が大切な劇を6年生が行ってくれたので自分から元気にあいさつをしようとする気持ちが高まった。

- ③ ハロー集会を行う事によって、あいさつの大切さが全校児童に伝わった。
- ④ 「自分から」「笑顔で」「相手に伝わる声の大ききで」であいさつすると、相手からもあいさつが返され気持ちよかった
- ⑤ 校門のところで地域の人にもあいさつを行った。あいさつが広まったと感じた。

4 成果と課題

成果

- ・あいさつ運動で使うグッズにアップルタートルを入れたことによって、自分たちで決めたキャラクターが生かされ、児童にとってキャラクターが一層身近なものに感じ、自分の学校のキャラクターという思いが一層に高まった。
- ・ハロー集会の劇でもアップルタートルが登場したことによって、児童はアップルタートルがいろいろな場面で活用出来ることを知った。
- ・「朝のあいさつ」について、工夫について各学級で話し合い、それを代表委員会で決め、決まった分担を6年生が中心となつて行ない、全校で朝のあいさつ運動を行ったことで気持ちよくあいさつする児童が増えた。
- ・朝のあいさつ運動では、地域の人にもあいさつをし、あいさつの輪が広まった。

課題

- ・終末の助言で「アップルタートル」を生かしたらどうだろう、という教師の助言がないとなかなか児童から自分たちで決めたキャラクターを生かそうとする発想は生まれなかった。
- ・限られた時間のなかで話し合いをし、実践を行う。学級活動（1）の実践を各学級積み重ねる事が代表委員会に生かされる。
- ・児童は、決まれば、その準備、実践に意欲的だった。課題を見つけ、自分達で話し合い解決していく実践を積み重ねる事が大切である。

